



## 日比谷公園の庭園鑑賞と自然観察

関東フォーラムでは、定例会合の後に上記の行事を行いました。以下若干の解説とともに当日行事の概要を報告します。今後も日比谷での会合の折には、同様の活動を行います。

1. 開催日時 : 2017年10月21日(土) 11:30

2. 参加者 : 11名

3. 庭園鑑賞と自然観察(雲形池、首賭けイチョウなど)

1) 日本庭園とヨーロッパ庭園について

庭園は和、洋ともに石、水、木で作られている。これを使って日本庭園では「自然を写す」を基本思想として作庭する。従って自然界には少ない直線、左右対称の形は極力避ける。一方、ヨーロッパ庭園では、作庭家の美的感覚に従って石、水、木を材料に造形する。直線、左右対称を使うことも多い。

(ヴェルサイユ宮殿、ヴォー・ル・ヴィコントなど)

2) 日比谷公園では、この日本庭園、ヨーロッパ庭園両方を見ることができる。

3) 本多清六博士のこと

本多博士は日本最初の林学博士。日比谷公園の設計に携わる。当時の東京市の日比谷公園建設計画は、全面的にヨーロッパ方式であった。これを強く主張する市に対し、博士は苦勞して心字池、雲形池など日本的要素も組み込み、独創的なヨーロッパ風公園を造った。

4) 植物について

・本多博士の「首賭け銀杏」

この樹は現在レストラン松本楼前にある。もともこのイチョウは、現在の日比谷交差点近くにあった。都市計画上伐採が決まっていたものを、博士は貴重な大樹の保存を考え、公園内への移植を強く主張した。技術的に移植不可能とする市に対し、博士は自らの「首を賭けて」市と強力に折衝し、移植に成功したのでこの名がある。

・バクチノキ

幹の表皮がはげた状態が、博打で負けて身ぐるみはがれた姿に例えて、この名がついたといわれている。バラ科では珍しい常緑である。

(文責: 田和恭介)

本日の講師の田和さんから、日比谷公園には日本庭園と洋風庭園の両方があるとのこと、その違いを説明していただいた。日本庭園は、自然をその場所に再現した庭だそうで、それに対し洋風庭園の方は自然のものを素材として使って庭園を造ったようだ。

両方があるということで、実際に目の前その違いをはっきり見ることができ、非常に面白かった。

(文責: 小川真理子)